

<アジア諸国レポート>

89歳の在比ジャーナリストが語る日系人、ドゥテルテ新大統領

岡 昭氏に聞くフィリピンの過去と今

坂内 正

はじめに

岡 昭（おか あきら）氏。以前、本誌でも紹介したことがあるフィリピン在住のジャーナリストです。1957年（昭 32）、技術コンサルタントとしてフィリピンに来て以来59年。地元邦字紙・まにら新聞の編集委員・セブ支局長として活躍し、今もセブ島に住みながら、まにら新聞の顧問として健筆をふるっています。この間、日本人会会長なども歴任し、フィリピンに住む日本人の間では知らない人はいないといわれるほどの人物です。

岡さんはまた「新日系人ネットワーク」を主宰し、在比日系人の訪日ビザ取得や就労支援のための日本語教育に今も現役として関わっています。人手不足が叫ばれながら、なかなか進まない介護人材の日本への派遣、ドゥテルテ新大統領の誕生など、新たな課題を抱えるフィリピンと日本の関係などについて、6月下旬・セブでお話を伺いました。



岡さんが語る日系人、ドゥテルテ評…… 一問一答

Q: 岡さんが2013年10月28日付のまにら新聞で「介護人材が逃げてゆく」と指摘した、遅々として進まない日本の介護人材の受け入れへの警鐘から3年近く経った。しかし、技能実習生の対象職種に介護職が加わった以外は、あまり変わっていないように思うがどうか。

岡: 私はあの記事のなかで、看護師や介護士のEPA（経済連携協定）による日本への受け入れが進まない現状から、そもそも外国人看・介護士には来て欲しくないのではないか、ならば実習生や介護ヘルパーへの規制も緩和し、もっと積極的に受け入れよ、と訴えたつもりだ。しかし実習生に介護職枠を加えたものの、未だに、その法律は通っていない。この間にも介護人材は他の国へ流れているし、日本の介護施設の人手不足はさらに深刻になってきている。

Q: 今、施設を作っても人手不足から利用者を受け入れられず、一部閉鎖を余儀なくされているところも出てきている。フィリピンをはじめ、外国からのサポートを受けないと立ちいかなくなるまで出て来ている。その一方で看護や介護の現場は、人員や管理の面でさまざまな行政の規制を受けている。この規制を守って介護の質を維持するのは、
本当に大変だとの声をあちこちで聞く。

岡: だからなおのこと、一日千秋の思いで待っているのだ。フィリピン人のほとんどは英語を話せるので、規制の少ない欧米に出稼ぎに行く人も多い。これは日系人だって同じだ。しかし日本にとって、大きな損失だと思う。

Q: 日系人といえば、岡さんは「新日系人ネットワーク」の代表としても長く支援してこられた。そもそも新日系人というのはどういうくりか。

岡: 一言でいえば、日本人がフィリピンで子供をつくって捨てていった子供達を助ける活動だ。戦前から戦後にかけて、残留した日系人はいわば「旧日系人」だ。この人達も今は2世がほとんど亡くなって、中心は4世の時代だ。戦中戦後の混乱の中で、軍役や通訳として徴用されて亡くなった人達の子孫だ。考えられないほどの混乱の中だったので戸籍もない。この人達は自分が日本人であることを、どうして証明できようか。

Q: 少し整理させてもらおうと、戸籍の証明ができないので、旧日系人も新日系人も訪日のビザがとれないということか。

岡： 旧日系人は終戦までに生まれ人と、その子孫で、今は4世の時代だが、先程も話したように証明が困難で、ビザがなかなか取れない。これを何とかしてあげたいということだ。

もう1つが新日系人。このメルクマールは「認知」、つまり父親のサインだ。これがあれば日本国籍を与え、入国を認めるべきだ。

以前このネットワークを作った時、日本大使館から3ヵ月までのビザしか出せないと言われた。じゃあどこへ出せばいいのかと問うたら、東京入管へ直接出してほしいと言う。それならばと、行政書士に頼んで26人分を出したが、「本件は承認された経験がないから」とそのまま返された。これはおかしいと、法務大臣にまで駆けあつたら、今度は2週間後に26人全員のビザが降りた。今から7年ほど前のことだ。「日本人配偶者等(子供を含む)」のいわば運用解釈で特別定住ビザが降りたのだ。こんなことをひとつひとつ潰しながら、日系人の訪日、さらには就労へと道をつけてきた。



6月25日セブで開かれたドゥテルテ氏の集会の様子を伝える地元紙・セブディリーニュース

ドゥテルテ新大統領の誕生

Q： ジャーナリストとしてのこれまでの活動だけでもすごいと思うが、こうした息の長いボランティア活動にも、頭が下がる思いだ。

ところで、先頃、ダバオ市長だったドゥテルテ氏が新大統領に当選したが、この国の政治の動向も長く見てきた経験から、どう捉えているか。

岡： ドゥテルテ氏は言いたい放題のように見えるが、ポイントをちゃんと押さえている。アキノ大統領もそれ以前に比べれば良くやったし、評判も悪くなかった。しかし、汚職と麻薬の撲滅や貧困の克服はできなかった。ミンダナオと平和もそうだ。

それから日本のマスコミはあまり報じないが、彼は連邦政府構想を持っている。フィリピンをルソン共和国、ピサヤ共和国そしてミンダナオ共和国の3つに分け、それぞれに大幅な自治権を与え、軍隊などは中央政府が一元的に管理するというものだ。英国のように、国が混乱すると困ると思われてか、これまであまり取り上げられなかったが。

Q： 確かに、日本では連邦政府構想というのは一部の新聞には載ったが、一連の「過激な発言」ほどには報じられていない。この構想をそれぞれの地域の人達はどう思っているのか。

岡： ルソン(マニラ)はNOだろう。ピサヤ(セブ)とミンダナオ(ダバオ)は受け入れてもいいと思っている人の方が多いのではないかと。北部の「タガログ語族」と、中部の「ピサヤ語族」では言葉だけでなく、考え方や文化も異なる。ミンダナオもわかりだ。北部と中・南部の経済格差も大きい。ドゥテルテ氏は大胆に自治権を与える一方で、イスラム武装勢力などとも話をしようということだ。彼は共産党とも、突っ込んだ話ができる人だ。

Q： よく米国共和党のトランプ氏との相似性が取り上げられたりする。しかし、ダバオにかかわりがある縁で、多少とも知っている私から見ても随分違うように思う。ドゥテルテ氏は意外に柔軟で、大胆かつしたたかだ。ステレオタイプの「比のトランプ」という評価は当たってないと思う。

岡： その通りだ。彼はマスコミ嫌いだ、ちゃんと計算して、押さえるところは押さえて、時にリークしたりもしている。この国で汚職や麻薬を根絶するには、命懸けのリスクを伴う。おそらく彼は命を懸けていると思う。だからフィリピンの国民も彼を大統領に押し上げたのだ。この点では、米国のトランプ氏とは比較にならない。

x x x x x

電話では時々お話していますが、久しぶりにお会いした岡さんは、右足を痛めたとかで杖をついてました。階段などは少し介添えが必要なほどで心配しました。しかし、ゆっくり、かみしめるように話す内容はしっかりしており、記憶も鮮明で、とても89歳とは思えないかくしゃくたる様子です。

別れ際、岡さんは苦笑いしながら、こんな事を言いました。「会社経営の第一線から退くことになった東京に住む65歳の息子から『親父はいつまで、こんなことをやってるんだ』と言われたけど、身体が許す限りもう少し頑張りたいんです。」

岡さんは来年2017年2月、90歳を迎えると共に、在比60年に達します。

ドゥテルテ新大統領誕生に沸く、生まれ故郷セブ

岡さんと会った翌日、6月30日の大統領就任前最後のドゥテルテ氏の当選を祝う集会在セブ市に隣接するコンブラシオン市で開かれました。ドゥテルテ氏は、ダバオ市長として治安を劇的に改善したことは知られていますが、生まれはセブなのです。今回の大統領選挙でも、ダバオと並んで高い支持を得たのがこの地です。折からの雨をおして集まった聴衆に対して、彼は支援への感謝の後、あらためて汚職と麻薬からの決別を訴えました。

ダバオについても触れておかねばなりません。5年前の東日本大震災の時にはいち早く、被災者のダバオへの無償での受け入れを表明しました。また3年前には、日本人墓地に自費で日本人慰霊のための「無憂の碑」を建立しました。どちらも当時はほとんど報道されませんでした。実は無類の親日家という顔も持っているのです。

実は、ドゥテルテ氏が当選してから、まだ大統領就任前だというのに、ダバオだけでなく、マニラやセブでも麻薬容疑者や粗暴犯の逮捕、時には銃殺までが急増しています。これにはドゥテルテ氏もすぐ反応し、「警告はいいが、安易な死刑はするな」といった趣旨の発言をしました。治安維持を最大の眼目としながらも、バランス感覚は欠かしませんが、この辺りはフィリピン流です。

これから先、難題が山積するなかで、議会对策なども含め、どこまでドゥテルテ流、フィリピンスタイルを貫けるか、注目です。



日本人慰霊の「無憂の碑」の建立式典でのドゥテルテ氏（2013年10月7日）

<文・写真>

Profile

坂内 正（ばんない ただし）

ファイナンシャルプランナー、総合旅行業務取扱管理者。元政府系金融機関で中小企業金融を担当。退職後、旅行会社の経営に携わり、400回以上の渡航経験を持つ。ロングステイ詐欺疑惑など、主にシニアのリタイアメントライフをめぐる数々のレポートを著す。著書に『年金&ロングステイ 海外生活 海外年金生活は可能か?』（世界書院）日本フィリピンボランティア協会（J A V A）相談役 ミンダナオ国際大学客員教授 『情報と調査』編集委員